

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>(1) 障害基礎年金について 私には生まれつき広汎性発達障害があり、小学生の時にADHD（注意欠陥多動性障害）、LD（学習障害）を発症し、思春期の中学生の時に過呼吸症候群、燃え尽き症候群、うつを発症し、大学の時に統合失調症を発症した、発達障がい者である。現在、結婚し、高校1年生と中学2年生の子どもがいる。 まず、一点目として、障害基礎年金を受給できない仲間がいる。私は受給しているが、年金額も下がってきており、将来的な障害基礎年金の拡充をお願いする。</p>	<p>「障害基礎年金を受け取れるよう拡充してほしい」、「子育ての不安がないよう子ども手当等の拡充をしてほしい」、「私学の助成をお願いしたい」という3つのご意見をいただいたが、いずれも大きな財源を要する話である。 障がいのある方が、生涯にわたって安心して生活できるよう、また子・孫の世代まで不安を持たずに済むよう、不安を取り除く仕組みをしっかりと考えていかなければならない。 これは、市だけで実現できるものではなく、国や県と共に取り組んでいきたい。子ども手当など子ども達に対する経済的支援や学費もそうだが、私がマニフェストにも掲げていた医療費助成等の問題もある。 私学助成は県が担当しているが、将来に不安を持たないような形をしっかりと検討していきたい。</p> <p>（私立校の助成に関しては、個人情報を除き、所管する県へ情報提供させていただいた。【広聴課】）</p>	健康福祉子ども局	国保年金課
	<p>(2) 子ども手当等の拡充について 子どもがたくさん欲しかったが、親の反対もあり2人で諦めた。熊本で安心して子どもを産み、子育てできるように、子ども手当と経済的支援の拡充を提案する。</p>		健康福祉子ども局	子ども支援課
	<p>(3) 私立校の学費について 私立の小学校・中学校・高校の学費を公立高校並みにしてほしい。私立校では、公立校ではできない教育も行っており、私の子々孫々は九州学院高校で教育を受けさせたいと考えている。経済的な負担を考えると、学費が公立並みになると大変ありがたい。</p>		市民局	広聴課
2	<p>(1) 道路の草刈について 西里小学校区の通学路については、県が管理していたときは、二期が始まる前の8月末までに草刈をお願いし実施してもらっていた。 現在、この管理は市の土木センターの管轄となっているが、今年は草刈が遅れた。台風15号の影響かは分からないが、要望自体は台風前にしていたところ、今年の草刈の実施は9月27日だった。 なぜ、例年に比べおおよそ1ヶ月も遅れたのか理由が分からない。市の草刈業務は、草を刈る時期にその都度分けて業者に発注しているのだろうか。県では、年単位一括して発注しており、草刈は要望すればその都度してもらっていた。県と同様に、4月末に年間を通した工期で発注してほしい。 また、今後は消費的経費の増額は期待できないので、路肩から法下になる箇所1m、法上になる箇所1.5mをコンクリートで覆ってもらえれば、草は生えず草刈の費用負担も減ると思うので、予算に余裕があるときにお願いしたい。</p>	<p>土木センターの草刈の遅れについては、私も市長になってから市内をあちこち回っていて、非常に気になっていた。この草刈に関しては、定期的な管理のあり方などを含めて、既に都市建設局に指示している。交差点の歩道に草が伸びており、車で左折するとき歩行者が見えずに危険な場所もある。お話にあった場所も含め、パトロールなどについても頑張ってもらいたい。 また、草刈の予算自体は、ずっと減らされてきており、その削減額も大きいので、担当者からも予算の増額をお願いされるような状況である。 ただ、これからは、道路、公園、建物など公有財産の維持管理に多額の費用がかかる。そこで、民間の事業所などに対して、自社の前だけでも除草のお手伝いなどのご協力も求めており、協力のお申し出もいただいているところである。ボランティアに登録していただき、一緒にやっていく方法も考えなければならない。 なお、ご意見をいただいたような場所の法面をきちんと整備した方が良いのか、そこに本当に植栽がいるのかなどについても、全体の管理の中で計画的に考えていかなければならない。当然、緑は多い方が良いが、きちんと管理できるようであれば危険であるし、防犯上も問題があったりする。 また、通学路については特に危険を排除しなければならない。一度に対応することはできないが、防犯灯などについても予算を重点化しながら優先順位をつけて対応していきたい。</p> <p>（今年度は台風被害箇所への復旧を優先させるために例年より処理が遅くなってしまった。来年度からは夏休み中に草刈するよう計画的に実施していきたい。 また法面等のコンクリート張りについては箇所数が多く、また傾斜がきついななどで箇所もあるので一度には対応できないが、できる箇所から着手していきたい。【北部土木センター維持課】）</p>	都市建設局	北部土木センター維持課
	<p>(2) 道路のパトロールについて 道路パトロールについて、車道は良いが、歩道にまでは目が行き届いていないと感じる。 市長へ写真を提出するが、1.5m幅の歩道があるに、草が生えて50cm分しか通れないような状況である。2箇所あるが、そのうち1箇所は近くでママシも出るような場所であり、児童が通学するので不安に感じている。 このような状況であることから、歩道の中でも特に通学路にかかるところについては2学期前に草刈を終えるようにし、道路パトロールをする職員には歩道も見よう教育をしてほしい。更に、災害の後は、直接歩いて道路状況を確認するようにしてほしい。</p>		都市建設局	北部土木センター維持課
3	<p>龍田西小学校の通学路新設について 通学路の新設についての要望がある。ニュータウン三光団地から、龍田西小が新設されるピオトープ立田団地の間に400mの里道がある。この里道については既に立会いも済んでいるが、1.8m幅の山道のままでは子ども達の安全な通学路とは言えない。子育て環境という観点からすれば、5～6m、できればバスでも通る8mくらいの道幅を確保してほしい。 今はあくまで通学路として話をしているが、団地と団地間の役員の考えでは、多目的道路、災害時の道路、龍田駅を起点にしてピオトープ立田団地、ニュータウン三光団地の団地間、もえぎ台の間の通路を確保をしたいとして要望しているものである。龍田西小は龍田小から全児童1200人のうち600人が異動してくるが、そのうち300人ほどの子ども達が、要望している道路を通る予定である。 現在、要望している道路に隣接する全ての土地の地権者の方達に、土地の無償提供をお願いしているところだが、まだ途中である。同意書へ署名捺印をもらうのだが、無償での提供をお願いするものであることから、簡単にはいかない。しかし、この作業について、北部土木センターは地元自治協議会の役員に任せきりであるため、市からも何らかの支援をしてもらえればと思う。子どもや孫達が安心して登下校できる道路を確保することを楽しみに役員一同頑張っているところである。</p>	<p>今度、龍田西小学校が新設されるので、通学環境についてはきちんと確認をしながら、対応を考えていきたい。 土地の無償提供については、私有財産の話であることから、理解を得るのが大変難しいと思うが、市が直接対応できることは限られている。 なお、生活道路の拡幅改良工事は、隣接地権者との合意形成が不可欠となるため、地元と行政の役割分担を行い、地域の課題の解決に向け今後も関係機関協議及び地元自治会との協働で事業実施に向けて取り組んでいきたい。</p>	都市建設局 教育委員会	北部土木センター 工務課 健康教育課

No.	ご意見	回答	局	担当課
4	<p>(1) マイナンバーとして付与される番号について マイナンバーとして付与される番号について、例えば、夫婦と子ども1人の世帯の場合、夫が1番なら、母2番、子どもは3番と同一世帯内では連番になっているのか。 また、このマイナンバーは、亡くなるまで必要になるようだが、その有効期限というのはどのようなものか。</p>	<p>【区政推進課副課長】 マイナンバーについては、家族の中でも連番にはならない。機械で計算された乱数（ランダムな数字）が、個別の番号として各個人に割り振られている。 また、マイナンバーカードの有効期限は10年間となっている。このカードは、免許証などと同様に身分証明証にもなるが、10年も経てば本人の顔にも変化があると考えられることから、有効期限が設けられている。特に子どもについては、10年より更に短い有効期限（5年間）となるものと聞いている。</p>	市民局	区政推進課 社会保障・税番号 制度推進室
	<p>(2) 地方創生への取り組みと産学官の連携について 地方創生担当大臣の話を知っていると、地方創生に関する交付金については人口割りで付くのか、それとも、地方における今後の計画に対しての交付金となるのか。 それに関連して、熊本市ではどのようなことを総合計画の中で考えているのか教えてください。 また、これは前市長との直接対話の会で尋ねたが、熊本では産学官の連携はどのようなになっているのか。例えば、熊大でマグネシウム合金を開発したが、現在の進捗も気になることである。また、熊本は水が良く一流の半導体メーカーも工場を置いているので、そのような分野でも産学官の連携を進めてほしい。熊本ならではの部分をPRしてほしい。</p>	<p>地方創生については、現在、本市でも「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を進めている。総合計画の策定と同時に取り組んでおり、集中的に取り組む部分として、特に「しごと」の中の若者の雇用に関して、若い人達が希望を持って仕事ができるよう、特に力を入れている。なかなか常勤で雇ってもらえないという問題、企業の立地の問題もあるので、雇用の質を高めていかなければならないと考えている。 この戦略については、他のどこの自治体も取り組んでいるように、総花的に何もかも盛り込むのではなく、熊本市特有の課題にターゲットをしっかりと絞って取り組んでいる。また、総合計画や都市の交通に関する計画など、他の計画との整合性もしっかりと図りながら、今年度中に策定しようと考えている。それが国から認められれば、そのアイデアなどに対して補助や助成が出ると思う。 産学官連携については、ちょうど今、熊本大学とも地域連携ということで、担当者の方と人材育成や開発等について具体的な話をしているところであり、今後いろいろと提携していこうということになっているので、内容がまとも次第発表したい。 また、熊本には、熊大以外の大学、立地企業、更に工業連合会もある。さまざまなところと産学官で連携するよう、話し合いをしているところである。</p> <p>（既に行っている具体的支援としては、産学連携コーディネータを配置して日常的に産学連携の相談に対応しているほか、「小規模マッチング会」を継続的に開催して大学の先生と地場企業を繋ぐ場を創出し、マッチング会後も、継続的に参加企業の連携支援を行っている。【商工振興課】）</p>	市長政策総室 農水商工局	政策企画課 産業政策課 商工振興課
5	<p>ブックスタート等の子育て支援について 子育て支援、その中でも原点である赤ちゃんのこことについて意見がある。働くお母さんも出産後は産休を取り赤ちゃんと関わる。イギリスで始まったブックスタート運動が日本でも導入されて15年経過している中、財政上の問題もあるのだろうが、熊本市においては、ファーストブックを提供する大切さを認識し、3ヶ月健診で一斉に全ての方に絵本を手渡すということができていない。 長い間子育て支援に関わっていると、家庭内にも電子メディアが入ってきてから、家庭での子どもとの関わり方も変わり、子どもが協調したり人の話を聞いたりする力が以前とは変わってきているように感じる。 そのような意味でも、生まれてきた子どもへ絵本などを通してかける言葉、子守歌などの重要性を、子育てのスタートに立ったお母さん達にしっかりと伝える機会を確保することが大切だと考えている。 市でも、保健所は保健所、図書館は図書館で頑張ってもらっているが、取り組み自体は縦割りなので、できるだけ横との連携を図りながら、赤ちゃんへの家族の関わりを行政としてバックアップしてほしい。</p>	<p>ブックスタートについては、実施されている他都市の中でも北海道恵庭市の市長を知っていたことから、県議時代に取り組みの話を知っていた。 子育てに関する情報や絵本を赤ちゃんの保護者にパックで渡すだけではなく、それを通じてボランティア、保健師、行政職員など、人のつながりが生まれる意味でも、子育てを支援するための事業として有効だと聞いている。 ブックスタートについては、実は先日の「どンドン語ろう！in東区」でもご意見をいただいております。今回いただいたご意見も含め参考にさせていただきながら子育て支援のあり方を考えていきたい。 実は、私も子どもが小さい頃には読み聞かせをしていた。小4になる子どもが本を読む姿を見ると、読み聞かせをして良かったと思う。現在、インターネットを介したコミュニケーションが増えているが、真意が伝わりにくいという側面もある。だからインターネットは使うなということではなく、基本的には面と向かっての対話こそが大事なんだよということを子ども達には伝えたい。それを補完するために、電話やメールなど、さまざまなツールがある。 三つ子の魂百までと言うが、子どもが小さいうちに大事な基本を学ぶためにも、就学前の支援まで含めて子育て支援を考えていきたい。</p>	健康福祉子ども局	子ども支援課
	<p>(1) 総合計画について 総合計画について、以前のものは関心があって内容を見ていた。今、市長が替わり新しい総合計画を策定中とのことで、市民懇話会にも全て参加したが、それも踏まえてまとめられており、パブリックコメントも実施すると聞いている。 しかし、各区には、現在まちづくりビジョンがある。そのまちづくりビジョンと総合計画、更には国が地方創生に関して各地方自治体に出すよう求めている計画、それらに一貫性がなければならない。国、県、市町村の計画の流れ・方向性がバラバラではいけないと考える。 また、以前の総合計画は、400ページほどの分量があった。そこで、今後は、できればアクションプランとして、誰がいつ何を実施するのかを一覧性のある紙1枚で明確にしてほしい。</p>	<p>総合計画について、各区のまちづくりビジョンなどと整合性がとれたものにならなければならないというご意見は、おっしゃるとおりである。 そこで、私は、総合計画を作り直す際に、全てが連動するように考えてほしいと指示している。総合計画も、人口ビジョンも、国が法律で定めている「まち・ひと・しごと」創生の総合戦略もこれから作っていくが、今年度中に全てを関連させる。 また、ご意見をいただいたように、何百ページもある総合計画は、市職員でも自分の担当部分しか読んでいないと思う。総合計画には、更に実施計画もあるが、これもまた分厚い。 このような状況であることから、市民の皆様にもっと分かりやすい形で示していきたいと考えているので、また内容についてもご意見をいただきたい。</p>	市長政策総室	政策企画課
6	<p>(2) 市の組織の事務分掌について 現在、熊本市には100以上の部署があり、自分の用件をどこに言えばいいのか分からない。そこで、事務分掌の中で、どの課でどこまでで答えられるのか、もっと分かりやすく示してほしい。</p>	<p>市の組織の事務分掌に関しても、できるだけ分かりやすくしていきたい。総合計画も組織体系も分かりやすいものにしていきたい。</p>	総務局	行政経営課

No.	ご意見	回答	局	担当課
	<p>(1) 龍田出張所の取扱い業務等について もし龍田が取り残されたらと心配で、政令市前の区画審議会から傍聴していた。総合出張所・出張所の問題に関心あった。この龍田公民館でも何度も説明会があり、当時の責任者からは、龍田を総合出張所にするのに予算がない、建物の建替えも法律上困難と聞いていたが、納得のいくものではなかった。 現在、MICEに100億、植木・城南・富合という新しい合併町には優先的に毎年30億の予算が付いていると聞く。それに比べ、従来の龍田地区には、5～6名の福祉職員を配置するだけの予算すら付けてもらえなかった。前市長は市長選の際に、龍田に迷惑は掛けないと言っていたのに、新しい区割りの結果、龍田では福祉関係の手続きもできないなど、被害の方が大きい状況で現在に至っている。 龍田出張所は、来年か再来年には総合出張所になると噂では聞いているが、名前は総合出張所でも出張所でも構わないので、福祉関係の手続きができるようにしてほしい。</p>	<p>龍田出張所を総合出張所のように拡充してほしいとのご意見をいただいたが、現在、区役所との距離、利便性も含め、総合的に検討しているところである。たしかに、今後、窓口での証明書等発行業務はコンビニでもできるようになるが、福祉関係のように区役所でないに対応できない業務が一部ある。龍田の場合、区役所までの距離があるので、そのような点も踏まえ、拡充も含めて総合的に検討していきたい。</p>	市民局	区政推進課
7	<p>(2) 出張所等窓口での自治会費等の一時預かりについて 先ほどの市長の説明では、今後、窓口業務の縮小に伴い、公民館業務を拡充していくとのことだった。 しかし、現実はどうかというところ、公民館自治会費の一時預かりについて、2～3年前までは出張所の窓口で受け付けてくれていたが、市職員の不祥事を受け、この取り扱いも禁止となってしまった。公民館自治会費の徴収や旅行の際の集金など、公民館自治会で日程を決めて行っているが、平均年齢が高いので、その日に来れなくて提出できない人も必ずいる。この件に関する市の対応は、あまりに一方的だと感じている。市長も替わったことなので、ぜひもう一度、窓口で補助的に受け付けるようにしてほしい。</p>	<p>公民館等の窓口での自治会費等の一時預かりに関してご意見をいただいたが、現金を預かると、さまざまな問題が起こりやすい。 したがって、その取り扱いには注意が必要だが、今後、まちづくりセンターなどが機能してくれば、きちんとルールを整備したり、地域の監査を充実させたりすることで、補助的にできることなども、ある程度考えられるのではないかと思う。</p>	市民局	生涯学習推進課 区政推進課
	<p>(3) 地域の公共施設の設備について 龍田出張所横の武道館で、週に1回、太極拳をしている。武道館の入り口に設置してある冷水機が、3年ほど前から十分に機能していない。床付近にあるペダルを足で強く踏んでも、水は2センチぐらいしか上がってこない。管理人の方に2年ほど言い続けているが、未だ改善しない。公民館、体育館、武道館の建物の所管が異なるというが、わざわざ市役所に行って頼むような話でもない。 また、龍田は他の公民館と比べれば良い方なのかもしれないが、卓球台、放送設備、展示用パネルなど全てが古くなり、使えないものも出てきて困っている。現在、いずれの公民館も、自治会費で補充している状況である。放送設備ですら自治会で費用を捻出する案もあったが、管理は誰がするのかという問題もあり、今のところ、民間のカラオケ設備を借りて発表会等を行っている。植木などは施設が新しいので設備も整っていると思うが、龍田から植木まで行ってしまう発表会でもない。 冷水機も含め、施設の設備を拡充する費用は、MICEの100億に比べれば、大した金額ではないので、ぜひお願いしたい。</p>	<p>冷水機を含め、多くの公共設備が老朽化しているという問題があるというご意見をいただいた。 たしかに、中心市街地の再開発や駅周辺の整備など、今後大きな投資が続くが、それと同時に、市民の皆様様の日常生活や地域の活動の中で活かせるものについては、それ程多額の費用を要するものではなく、できるだけ取り組んでいきたいと考えている。</p>	観光文化交流局 市民局	スポーツ振興課 生涯学習推進課
	<p>(1) 九州自動車道の側道について 九州自動車道の側道で、楠田地方面から楡木5丁目のにれのき保育園横を通って菊陽町向陽台の県道49号熊本大津線に向かう道路が、舗装はされているものの非常に狭い。道路の白線とガードレールとの間は30cmくらいしかない。 この道路は交通量も多く、特に朝夕は多くの通勤車両が通っている。日中は、車を運転しない高齢者の方々が熊本大津線沿いのスーパーへの買い物で行き来しているが、わずか30cm幅のところを手荷物を持ったりキャリアバッグを引いたり、自転車を押ししたりして通行している状況は、非常に危険だと感じている。</p>	<p>九州自動車道の側道について、ここの朝夕の交通量が多いことは知っている。抜け道のようになっていて通行する車のスピードも出ており、そこを通った際に危険だと感じたこともあったので、まずは状況等をよく確認したい。 （当該市道は、路側帯が約30cmと狭いため、歩行者の通行が困難な状況である。このことから、交通管理者（警察）及び菊陽町と協議を行い、外側線、路面表示等による安全・安心な通行を目的とした対策を検討したい。【北部土木センター維持課】）</p>	都市建設局	北部土木センター 維持課
8	<p>(2) 九州自動車道の側道横の用水路について その側道の横の用水路には生活排水が流れており、夏季は臭気が非常に強くなる。その下を見るとヘドロに苔が生えたようになっており、滑ったらどうしようもない状態である。問題の用水路は、にれのき保育園のところから向陽台のところまでの約250mにわたって幅が約1.2～1.3m、深さが約1.5m～2.0mあり、人が落ちたらどうしようもない。しかも、この用水路に時々生ごみを捨てる人までいて、臭気の一因になっていると思う。 そこで、交通安全対策と臭気対策を兼ねてその用水路に蓋をし、暗渠にすることで歩行者専用道路にしてはどうだろうか。</p>	<p>用水路の管理については、ヘドロや臭気の状態、また暗渠にして歩道にできるのかなど、ご提案いただいた内容について、所管先も含めて確認させていただきたい。 （水路については、定期的パトロールを行い、浚渫及び清掃を実施する。また、不法投棄禁止看板を設置し周知を行う。【北部土木センター維持課】） （用水路に蓋を架け、歩道とすることについては、現地確認を行い、交通量の詳細な把握を行うようにし、水路管理者、菊陽町とも協議を行い方策を検討していきたい。【北部土木センター工務課】）</p>	都市建設局	北部土木センター 維持課 工務課

No.	ご意見	回答	局	担当課
9	<p>街路灯・防犯灯の設置について 市長宛の要望書は既に北部土木センターへ提出した内容だが、街路灯、又は防犯灯の設置を要望する。提出済みの要望書の中では街路灯の設置を要望している。それというのも、防犯灯は各自治会で設置するように決められているからである。しかしながら、防犯灯にしても自治会ではとても対応できる額ではないので、市の方で対応してほしい。</p> <p>市長の話によると、現場主義を大切にしているとのことだが、現場は旧57号線の弓削小学校の入口から弓削立体橋の近くまでの130mほどの場所である。そこになぜ街路灯が必要なのかというと、片側はJR豊肥線で全く灯りが無く、反対側は、三菱電機の工場跡地で何も建っておらず、手前には倉庫や工場敷地があるものの民家は無いので、灯りを取り付ける電柱も全く無い状況だからである。</p> <p>要望書を提出した後に北部土木センターの担当者にも現地を見てもらったが、ここが市道ならばできるが、ここは県道なので県道の基準があり、街路灯は設置できないとのことだった。街路灯は、交差点や歩道で見晴らしの悪いところ、事故が起きそうなどところには設置できるということだが、要望箇所は、弓削小学校、武蔵中学校に通う児童・生徒の通学路となっている歩道であり、真っ暗な道を子ども達が通学している危険な状況である。多くの児童・生徒が通るが、17時にはやがて暗くなる。片側はJRの線路沿いで危険なため自転車は通行できず、道路反対側の歩道を通っている。</p> <p>まちづくり補助金なども検討したが、補助は1/2であり、見積もりを取ったところ130万だったので、自治会で65万は負担しなければならない。せめて電柱があれば、市へ要望はせず自治会で防犯灯を付けたところなのだが、たしかに、設置できる基準が県と市で違うのかもしれないが、要望箇所は危険のある歩道なので、ぜひとも検討してほしい。</p>	<p>現在、県道は全て市の管理となっており、国道も3号線と57号線及び208号線以外は、国から委託されて市が管理している。</p> <p>街路灯の設置に関して県道と市道で基準が異なるということについては、確認させていただきたい。</p> <p>また、防犯灯の補助については、多くの地域が手を挙げており、落選も出るような状況である。現在、できるだけ多く対応できるように予算措置を指示しているところではあるが、電柱も何も無いところに一から防犯灯を設置するのは、経費も嵩み大変難しいものと推察される。しかも、これが街路灯となると、設置には予算も時間も相当かかることは間違いない。北部土木センターに要望書をいただいているということだったので、内容も確認させていただきたい。</p> <p>通学路も含めて道路の危険箇所をなくしていくことについては、急いで対応しなければならないと認識している。場所によっては昼間に回っても夜に危険なのが分からないこともあると思うので、皆さんも危険箇所に気付いたら市に連絡し教えていただきたい。全てをすぐに解決することは難しいかもしれないが、きちんと現場も確認しながら対応を考えていく。</p> <p>（県道については、県が管理していたころは交通量が25,000台/日以上なければ街路灯を設置しておらず、本市の管理になってからも、交差点や横断歩道等を除いた直線部については、交通量の条件を残している。今回、要望書をいただいた場所については、直線部であり上記の設置基準には該当しないため街路灯の設置はできないことをご理解いただきたい。【北部土木センター維持課】）</p>	都市建設局	北部土木センター維持課
	<p>（1）区バスについて “日本一住みやすい政令市・熊本市”が政令市になる際のキャッチフレーズのはずだったが、未だ実感が無い。北区役所が植木になり、車がない龍田の交通弱者には行きにくく、不便になってしまった。当初、市が区バスを打ち出し、区バスがあるから大丈夫だと大きく報道されたが、実際に運行が始まってみると1日4本しかなく、朝の便に乗り遅れて3時ごろのバスに乗ると、帰りは夕方になってしまう状況だった。当時も不便ではあったが、区バスが植木まで行くのでまだ良かった。</p> <p>ところが、10月の初めごろ、ある人が清水のバス停で区バスを40分ほど待っても来ないので電鉄に電話したところ、利用者がいないため廃線になったと聞いたとのことだった。あれだけ大々的に報道していたのに、住民に周知しないまま廃線にするのはいかかなものだろうか。市の交通政策総室にも話を聞いたが、2年間の経過措置の中で利用者が少ないために路線が廃止になったとのことだった。市には廃止することをもっと周知する義務があったと思う。もし廃止にするのなら、住民が手続きで北区役所に行かなくても済むようにしてほしい。</p>	<p>区バスの運行については、利用者が少なく基準を満たさなければ路線を廃止することはスタート当初から市民の皆様にはお知らせしたうえで、できるだけ継続して運行するよう取り組んできたところではあった。その結果として、運行体制が変わっている状況である。</p>	都市建設局	交通政策総室
10	<p>（2）龍田出張所の取扱い業務等について もし、区バスのルートを廃止にするのなら、住民が手続きで北区役所に行かなくても済むようにしてほしい。</p> <p>まず、龍田出張所を総合出張所にしてほしい。</p> <p>また、旧北保健福祉センターがほとんど使われず、鍵が掛かたままになっているとの報道があったので、いつでも誰でも相談ができるよう、旧北保健福祉センターの業務を全面的に復活させてほしい。以前は、保健師が4、5人常駐していて、すぐに相談ができる体制だった。</p> <p>現在、植木まで行かなければならない最大の理由は、福祉関係の部署が北区役所にしかないことである。そこで、北区役所の福祉部門を健康センター清水分室に分けてもらえないか。たしかに人件費はかかるが、これまでも高齢化や子育て支援などで重要な役割を担っていたところなので、人的な配置をお願いする。</p> <p>更に、防災に関しても、前回の龍田の被害の時に土嚢を要請したら、龍田出張所に袋はあるが土嚢そのものは植木まで取りに行ってしまうと言われたと聞いた。北区もあまりに地域が広すぎて、北区役所では龍田のことまで分かっていないのではないかと懸念がある。</p> <p>最後に、MICEの100分の2でよいので龍田5校区へ予算を回し、住みやすい地域にしてほしい。</p>	<p>たしかに、龍田は植木まで遠く北区役所まで出向くのは難しいという声もいただいている。そのような点も踏まえ、龍田出張所については、できるだけさまざまな業務を取り扱えないかということも含めて、これから考えていきたい。</p> <p>現在も、区役所まで遠い方々への利便性確保を考え、総合的な保健福祉サービスを提供できるよう、例えば、1歳6ヶ月児・3歳児の健康診査については継続して旧保健福祉センターで実施していたり、区役所で行っている相談業務についても地域担当保健師が地域や家庭に出向いて対応していたりする。</p> <p>福祉以外についても総合的に考え、限られた人員を効率的・効果的に配置し、市民サービスの向上に努めていきたい。</p>	市民局 北区役所	区政推進課 保健子ども課

No.	ご意見	回答	局	担当課
11	<p>バス路線の充実について 行政が直接実施することではないが、交通の便が悪い。交通センター方面へ行くバスの便は多いが、近場の麻生田や楡木を通るバスの便が少ない。私は楡木へ行くバスを利用しているが、この路線も11月いっぱいではなくとも貼紙がしてあった。これで武蔵塚などへ行くのも不便になる。 利用者がいないため廃止することだが、たとえ利用者がいなくても、バス路線が無ければ、我々のように車を持たない人は移動手段がなくなり大変困るので、ぜひバス路線の充実を図ってほしい。以前、日赤や菊南へ行くことがあったが、龍田から直通のバスはなく、水道町か浄行寺での乗り換えが必要だった。北パイバスと東パイバスが直接つながれば大変助かる。 市は公共交通機関の利用を促進してのわりに不便な状況なので、ぜひバス路線の充実をお願いしたい。</p>	<p>バスの便が悪いので充実をというご意見をいただいたが、今、どこのバス会社も経営が厳しい。バス路線の廃止もどンドン続き、悪循環に陥っており、各地域で利用できるバスの本数が少なすぎるという話も聞いている。 先日、複数あるバス会社の社長さん方との第1回目の懇談をしたが、経営陣ともしっかり連携を図りながら、さまざまな公共交通の計画を立てている。 そのような中、市電は延伸も含め検討することも示しているが、住みよい便利なまちはどこの都市でも乗り換えがとても便利なので、バス網も、JR豊肥線・鹿児島本線など含めた鉄道路線も、便利に乗り換えて利用できるように整備するため、いただいたご要望なども踏まえつつ、事業者の方々と共に今後計画を考えていきたい。</p>	都市建設局	交通政策総室
12	<p>地域での介護事業支援について 私は、NPOの介護事業として、教室と食堂の両方を兼ねた認知症カフェを主催している。 今、高齢者だけでなく子ども達の環境も悪くなっている。母子家庭が増え、一人で寂しく作り置き夕食を食べている子どもが増えているような状況であり、東京では児童保育のような取り組みをしているところが23箇所あるようだ。今日も会議でその話が出た。母子家庭は塾へ通わせるお金がないため、大学にも働きかけて、そのような子どもに対し、放課後に大学生が関わるような取り組みも行っている。 一方で、高齢者の方も大変で、例えば、夫が認知症になったが施設に入れる費用は高額で年金では払えないため、子ども達から借金しながらやりくりしているという話も聞く。現状はどンドン悪くなっており、日本では相対的貧困の高齢者が20パーセントを超えているという報道もある。 このような状況を地域の力でどうにかしていかなければならない。私達のような取り組みは合志市にも広がっている。合志市では、公民館を利用して食事を400円で提供しており、そのうち200円は市が負担してくれていると聞く。また、地域の人がつくった野菜の差し入れなどもあるらしい。このように地域の皆が同じ気持ちで取り組む必要がある。私は事業をして5年6ヶ月経つが、地域は無関心である。このような状況だからこそ、市議には、菊陽町のように部会をつくって取り組んでほしい。どンドン有効な提案をしてもらわないと、県にしても市にしてもその仕事が全く見えない。</p>	<p>今後益々、ひとり親支援なども重要になってくる。行政の補助も必要だが、例えば、ご意見にもあった学童保育については、東京などでは6年生まで面倒を見るNPOの方々が活動されていたり、江戸川区では希望者全員を受け入れていたり、さまざまな事例があることを私も調べているところである。 これからも頑張って取り組んでいきたいと考えているので、また現場のご意見を聞かせていただければと思う。</p>	健康福祉子ども局	高齢介護福祉課 子ども支援課

No.	ご意見	回答	局	担当課
13	<p>（１）買い物弱者・小売店舗の誘致について</p>	<p>七本地区に日用品の小売店舗が無いということや、田原坂駅周辺が夜は暗く痴漢が多いなどというご意見をいただいた。 小売店舗が無いことに関しては、採算の取れるような立地がなかなか難しいという経済的側面もあるのかもしれない。しかし、74万人が暮らす政令指定都市であるこの熊本市内においては、やはり、そのような地域においても、老若男女全ての方がちょっとした買い物は済ませられるような拠点ができればと考えているので、民間の方にもいろいろ働きかけをしながら検討させていただきたい。 ちなみに、私の父の実家がある天草町大江軍浦も、病院に行くにも救急車で45分くらいかかる場所であり、小売店舗は無い。しかし、移動スーパーのようなものが来ているので、地域の人達はそういったもので買物をしている。 熊本市内においては、買い物に不便な地域であっても、他の買い物拠点からは程離れていないので、例えば、その地域までデリバリーとして運ぶなど、いろいろなことができないか考えられると思う。</p>	農水商工局	商工振興課
	<p>私が住んでいる七本地区は、国道208号線から田原坂公園に行く途中にある80人ほどの集落である。 この七本地区の田原坂駅周辺に小売店舗を誘致してもらえないかと考えている。というのも、七本地区では、一番近い日用品店や生鮮食品店、コンビニなどに行くには、全て車で10分以上かかる。足腰の悪い85歳のお年寄りも、仕方なく自転車によるめきながらも毎日買物に行っている。私の母も体を壊して自転車に乗れなくなったため、私が2歳の子どもの育児と在宅での仕事の合間に、車で買い物に連れて行っている状況である。仕事にも支障が出ており、このまま続けられるかどうか分からない。 そこで、最近ニュースで見た、天草のお年寄り向けコンビニのようなものでも良いので、つくれないのだろうか。やはり、集落の中に日用品の小売店舗が一つも無いのは問題だと感じる。ネットスーパーに頼んでも、翌日か翌々日にしか届かない。 また、この集落を通るバスは本数が大変少なく、植木中心部に行くにも利用しやすい状況ではないし、大半のバスの出入口には段差があり、買い物用カートを持ったお年寄りが乗れるバスも少ないと感じる。</p>	<p>（本市では、これまで、商店街買い物弱者対策事業として、協同組合が実施する宅配や無料送迎バスの運行への支援や、商店街組織がタクシー事業者と連携し、高齢者等を商店街に送迎するというモデルプランの策定等に取り組んできた。 また、今年度は、商店街をはじめ、各事業者が実施されている「商品の配達」や「自宅や店舗への送迎」といったサービスをまとめた、「買い物弱者向け“ガイドブック（手引き）”」を作成し、高齢者のいる世帯等に配布することとしている。 【商工振興課】）</p>		
<p>（２）通学路の危険について</p>	<p>私は、中学校は鹿南中学校に、高校は田原坂駅から市内に通っていた。そのころ、通学路で何回も変質者に会ったし、私の友達も変質者に会ったという話を聞いた。田原坂駅の周辺では、実際、危うく襲われそうになり、必死にカバンを投げつけて、スカートの裾が破れながら、必死になって自転車を倒して走って逃げ帰ったこともあった。大声を出しても、周りに誰もいない。本当に命にかかわる問題なのである。過去には、女子高生が襲われ殺された事件もあったと聞いている。 そのころから田原坂駅周辺は全く変わっていないし、鹿南中学校への通学も距離が自転車通学には足りず歩いて通っている。女の子が一人で通っている姿を見掛けると、とても心配になる。 私は、お金持ちではなく土地は買えないので、実家近くの親が所有している土地に家を建てることになった。これからも、ずっと七本で暮らしていくことになり、娘の将来が不安でならない。 街灯もなく、夜は真っ暗な状況なので、先の小売店舗の話にもつながるが、ぜひ民間の誘致が良いので、お願いしたい。</p>	<p>（「通学時の危険」について、登下校時の安全確保は重要なことと認識している。各小学校においては、防犯を含む生活安全、交通安全、災害安全（防災）のそれぞれの領域について、児童生徒が主体的に安全な行動をとることができるよう安全教育を行っているところである。 また、小学校区内の危険箇所を地図上に示した「安全マップ」を小学校ごとに作成し、児童生徒及び保護者へ配布し、共通理解を図っている。 お住まいの小学校では学年ごとに集団下校を行っており、地区によっては老人会や地域の方々が入り込んで迎えに来ていらっしゃる状況である。 中学校でもできるだけ複数で帰るように呼びかけを行っており、生徒へ反射タスキを持たせ、部活動も冬場などは早く終了し複数で帰るように指導している。 これからも、通学路については、警察、道路管理者、学校（教育委員会）とPTA等地域の方々で合同安全点検を実施するなど、学校と地域、行政が力を合わせて子ども達の安全を確保する取組を進めてまいりたい。 【教育委員会健康教育課】） （北区役所管内では、児童や生徒の下校時間帯に合わせた青色回転灯のパトロールカーによる自主防犯パトロールを週1回実施しており、毎年10月の「安全安心まちづくり旬間」中は、重点防犯パトロールを実施しているところ。また、事案発生時には、地域を限定した緊急的な防犯パトロールの実施や地域への情報提供を行うなど、地域の安全安心のまちづくりに努めているところである。 ご心配されている夜間の対応としては、防犯灯の設置となるが、町内自治会からの申請に基づき、その設置に要する費用の一部を補助するなど、地域の方々と一緒に取り組んでいるところである。このため、具体的な防犯灯設置については、町内自治会長や役員の方々にご相談いただくようお願いする。 【北区役所まちづくり推進課】）</p>	教育委員会 北区役所	健康教育課 まちづくり推進課

No.	ご意見	回答	局	担当課
13	<p>（3）ストーリー性のある観光について 熊本城と田原坂公園をセットにして、ストーリー性のある観光をPRできないだろうか。 今、熊本城は全国的にアピールもしていると思うが、お城だけでなくどこでもあるので、他と差別化ができていないと思う。 そこで、田原坂公園が激戦地になった西南の役では、熊本城に籠城したりしており大変つながりがあるので、これを関連付けてアピールできないだろうか。 私は県外から引っ越してきたのだが、小学生のとき熊本に引っ越すと友達に話したところ、「すぐく田舎でしょ。」と馬鹿にされたのに、実は田原坂公園の近くだと聞いたところ、一転して、「わあ、羨ましい。」と評価が急変したという記憶がある。田原坂という地名は、小学生でも全国的に知っているのでは。 したがって、もっと熊本城と田原坂をセットにして売り出してはどうかと考えている。11月15日に田原坂資料館もリニューアルオープンするが、あまり知っている人がいないと思うので、もっとPRしてはどうかと思う。</p>	<p>田原坂と熊本城を西南戦争で結ぶというご提案をいただいたが、私もストーリー性のある観光に取り組みないといけないと考えてきた。 ただ単に、熊本城や水前寺成趣園などを単体でPRするのではなく、そのような史跡や名勝の背後にある歴史・文化などにもきちんと目を向け、関連させるべきである。例えば、なぜ日本赤十字の発祥地が田原坂なのかなど、過去にそこでどのようなドラマがあったのかという歴史性も大切にしたい。 今度、田原坂資料館が新装オープンするので、ここに参加されている皆様には、ぜひ見に行ってくださいと思う。田原坂資料館については新市基本計画にもあるが、これはぜひ活用しなければならない。記者会見でもきちんと発表しているので、おそらく15日にはメディアにもたくさん取り上げてもらえるかと思う。また、オープンに合わせて、若者向けに西南戦争をわかりやすく説明したパンフレットを製作している。 田原坂には、西南戦争、明治維新などの貴重なドラマがあると思うので、資料館のいろいろな展示も含め、熊本城と連動していければと思う。近年では、熊本城の来場者が年間160～170万人くらいだが、今は熊本城だけを見てきようならと帰られるような状況である。そこで、もう一足延ばしてもらおうためにも、「難攻不落の城と言われた熊本城での籠城戦、それと西南戦争で一番の激戦地であり、映画『ラストサムライ』の題材にもなった田原坂も見に行きましょう。」などというストーリーも考えられる。ご提案いただいているように、ぜひ、ストーリー性のある観光にしていきたい。</p>	観光文化交流局	熊本城総合事務所 文化振興課 観光振興課
14	<p>公共交通の充実を軸にした観光振興について 県の都市計画に関する意見になるが、JR豊肥本線の熊本駅肥後大津間の複線化を提案する。複線化によりダイヤが増え、通勤通学する県民や旅行者など、皆がもっと利用しやすくなる。 JRでは、日本国籍のない外国人に対してジャパンレールパスを発行している。これは、7日間利用で3万円、21日間利用では6万円で、日本中の新幹線、JR、在来線が乗り放題で利用できるフリーパスである。例えば、台湾からの旅行者は、成田空港でこれを買って東京、京都、大阪などを観光している。そこで、大阪、京都まで来た外国人旅行者に、もう少し足を延ばしてもらい、熊本～阿蘇まで無料で行けるようにできないだろうか。既にフリーパスを持っている外国人にとっては、ただ同然で熊本まで来ることができるようになる。 せっかくなので、このJRの企画を大いに活用すべきである。JR新水前寺駅と市電との連結も成功したことなので、市街地と阿蘇の往来がもっと便利になれば、外国人旅行者にもゆっくり熊本県内・市内に滞在し、観光してお金を落としてもらえるようになる。熊本を好きになってもらえれば、帰国後の口コミも期待できる。更に、その評判に続く日本人旅行者も出てくる。 たしかに、単線を複線化するには困難も多いかもしれないが、関係各所で力を合わせて貫徹すれば、熊本の発展は目覚ましいものになると考える。ちなみに、福岡にも首都高速があるが、首都高速をつくるのは大変でも、首都高速のおかげもあって、英誌MONOCLÉ「住みよい都市ランキング」においても上位に入るようなまちになった。 以上、市長の「誰もが憧れる 上質な生活都市 くまもと」という言葉を聞き、私もこの提案を試みたくなった。</p>	<p>実は、私も県議時代にJR豊肥本線の複線化や高架化ができないかと随分話をしてきたのだが、数百億円という莫大な予算を要し、実現は困難ということだった。 ただ、ジャパンレールパスのお話があったが、今、鉄道や市電などの利用が増えている。なぜかとうとうと、とても分かりやすいからである。例えば、我々も海外に行つてバスに乗るには相当な勇気がある。国内ですら、お釣りが出ないような必要もあり少し身構えなければならなかったが、最近ではICカードも利用できるようになり便利になった。 鉄道の利用が増えているということは、便数を増やすような取り組みも必要となってくるということである。いきなり複線化は難しいが、例えばすれ違い駅を設置することで、便数も上手く増えていく。JR豊肥本線についても、今、光の森～熊本駅の便数は非常に多い。豊肥本線の充実については、実はJRの幹部の方とも先日話したところだった。その際、今から鉄道需要は増えていくと思うので、車両の連結を増やすなど、輸送力の強化も検討していきたいと聞いた。 やはり、公共交通で動きやすいまちをつくることは、今後非常に大事だと考えている。例えば、地域でコミュニティバスを走らせるにしても、多くの人が行きたい場所を循環するよう、住民の皆様ニーズも把握しながら計画を立てていきたい。 最後になるが、この「ドンドン語ろう！」は、今年度は各区で2回ずつ開催し、回らせていただいた。どのようなご意見が出るか分からない中で対応するので毎回非常に緊張しながら臨んでいるが、住民の皆様との対話の中にいろいろなヒントがある。実は、これが“まちが良くなる源”なのである。お話しした内容は記録しており、市の担当職員も確認するし、市のホームページでも順次公開している。この「ドンドン語ろう！」については、来年度以降もずっと皆様と対話をしながら続けていきたい。</p>	都市建設局 市民局	交通政策総室 広聴課